

西伊豆健育会病院 放射線科 診療放射線技師 山下 隆司

- 功 績** 医師になり代わり「診療用放射線の安全利用の為の研修」を1年を通して実施し、また、頸部エコーの手技を身につけることで、外来・入院患者さんの検査や脳ドックのオプションとして実施。医師業務のタスクシフトと地域の方々の予防医療に貢献した功績。
- 推 薦 者** 放射線科 石川 滋彦
- 推 薦 理 由** 山下は入職11年目の診療放射線技師です。彼は昨年度から義務化された「診療放射線の安全管理研修」を医師になり代わり実施するため、資料を作成し放射線を利用する全職員に研修を行いました。また、自分たちの技術を磨くことで医師の負担軽減や病院への貢献にならないかと考えた山下は、健康管理室の脳ドックに目をつけ、脳ドックのオプションとすべく頸部エコーの手技の練習を重ね技術を身につけ、地域の方々の疾病予防と病院経営に貢献してくれました。

内 容

山下は平成22年4月に新卒で入職した診療放射線技師です。今回、昨年度・今年度と病院の「1年後の姿」にある医療従事者の働き方改革に寄与するため、1年をかけドクター業務のタスクシフトに大きく貢献したので理事長賞へ推薦致します。

昨年度から、「診療用放射線の安全利用の為の指針（令和2年4月1日施行）」に伴い、医療放射線安全管理責任者（仲田院長）が放射線従事者（医師・看護師を含む）に対し安全利用の為の研修資料作成と安全管理研修を行うことが義務付けられました。

山下は情報収集のため講習会への参加を試みましたが、軒並みCOVID-19感染対策の為、中止となってしまう、研修資料の全体像が見えないまま時間が過ぎていきました。そんな中、山下は「指針に基づいた研修資料は、定型ではなく、病院の数だけあっても良いのではないのでしょうか。西伊豆健育会病院独自の研修資料を作ります」と言い、指針を何度も読み返し情報収集・資料作成し、目標であった上半期内に無事、研修資料を完成させ、複数回に分け医師全員、看護師総勢55名に対して研修をおこないました。

また、自分たちの技術を磨くことで医師の負担軽減や病院への貢献にならないかと考えた山下は、健康管理室の脳ドックに目をつけました。脳ドックのMRI検査時、併せて頸動脈エコー検査を行うことで、脳梗塞等疾患の早期発見に繋がり、脳ドックのオプションとして魅力となるのではないかと考え、時間が空くと職員の頸部を借りて練習を重ねました。下期には、外来・病棟にも検査対象を広げ、ADLの悪い入院患者さんの検査対応が出来るレベルまで成長することができました。今年度は脳ドックのオプションとして大きくアピールし、地域の方々の疾病予防と病院経営に大きく貢献してくれると確信しています。

これまでの彼の成長と努力、今後のさらなる成長に期待を込めて山下隆司を理事長賞に推薦致します。